

新女王 装い磨き抜いた

大会では、鏡を見ずに短時間でどれだけ美しく着物を着装できるかや、立ち居振る舞いや言葉遣いなどを総合的に審査する。大会は6月にあり、全国6地区の予選を勝ち抜いた出場者が集まり、「振り袖」や「子ども」などの6部門に分かれて競った。吉田さんは振り袖部門に参加し、「留め袖」と「カジュアル」の計3部門から1人選ばれる「きもの装いの女王」に輝いた。

吉田さんと着物の出会いは、小学校6年生のころ。通っていた近所の寺の「土曜学校」で、先生から声をかけられたのがきっかけだったという。もともと自宅には着物がなく、祖母のもの丈が合わなかった。着

玉名市在住で崇城大3年の吉田有見さん(21)が、東京都で開催された「全日本きもの装いコンテスト世界大会」(全日本きものコンサルタント協会主催、経済産業省など後援)で「きもの装いの女王」に選ばれた。

きもの世界大会 玉名の吉田有見さん



全日本きもの装いコンテスト世界大会で「きもの装いの女王」に選ばれた吉田有見さん＝玉名市岩崎

「美しい日本人へ 精進したい」

付けとは縁がなく、習い始めたばかりの頃は、あまりの難しさに泣きながら着付けを学んだこともあったという。「和の心を通して、自分の未熟な面に気づいた」といい、約10年間、月に2回、寺で着付けなどの稽古を続けている。

先月には玉名市役所を訪れ、蔵原隆浩市長に大会の結果を報告した。吉田さんは「女王として美しい日本人を目指し、精進したい」と話した。今は熊本市内でも稽古に励む。「着物を着ると背筋が伸び、心が美しくなる感覚になる」と吉田さん。今後は指導者として子どもたちに伝統を伝えることも考えているという。

(大木理恵子)